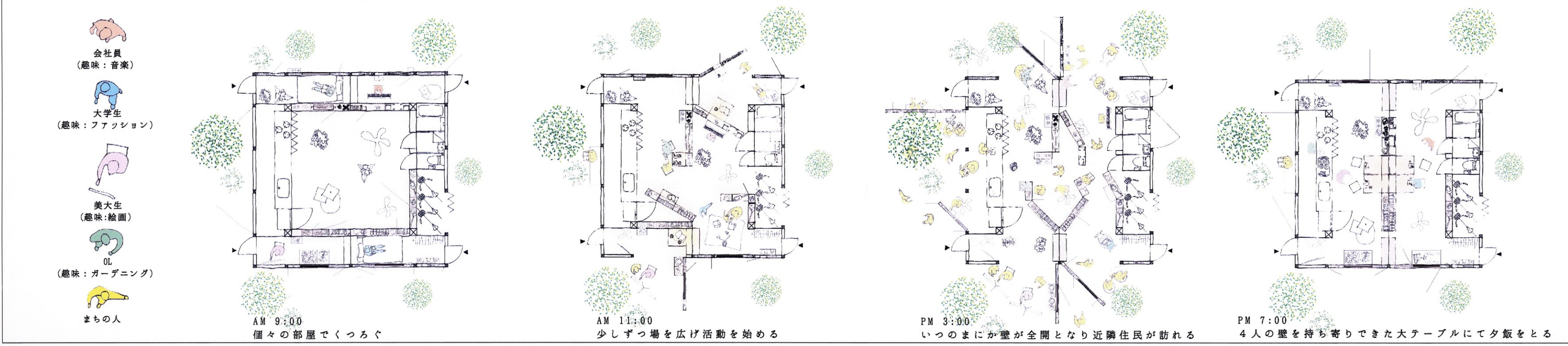


滲呼吸する家

動く壁は呼吸するかのように人の個性や自然環境を吸い込み、他へと吐き出す。可動の壁は境界線を滲ませ、真の共生を息づかせる。

Plan S=1/150

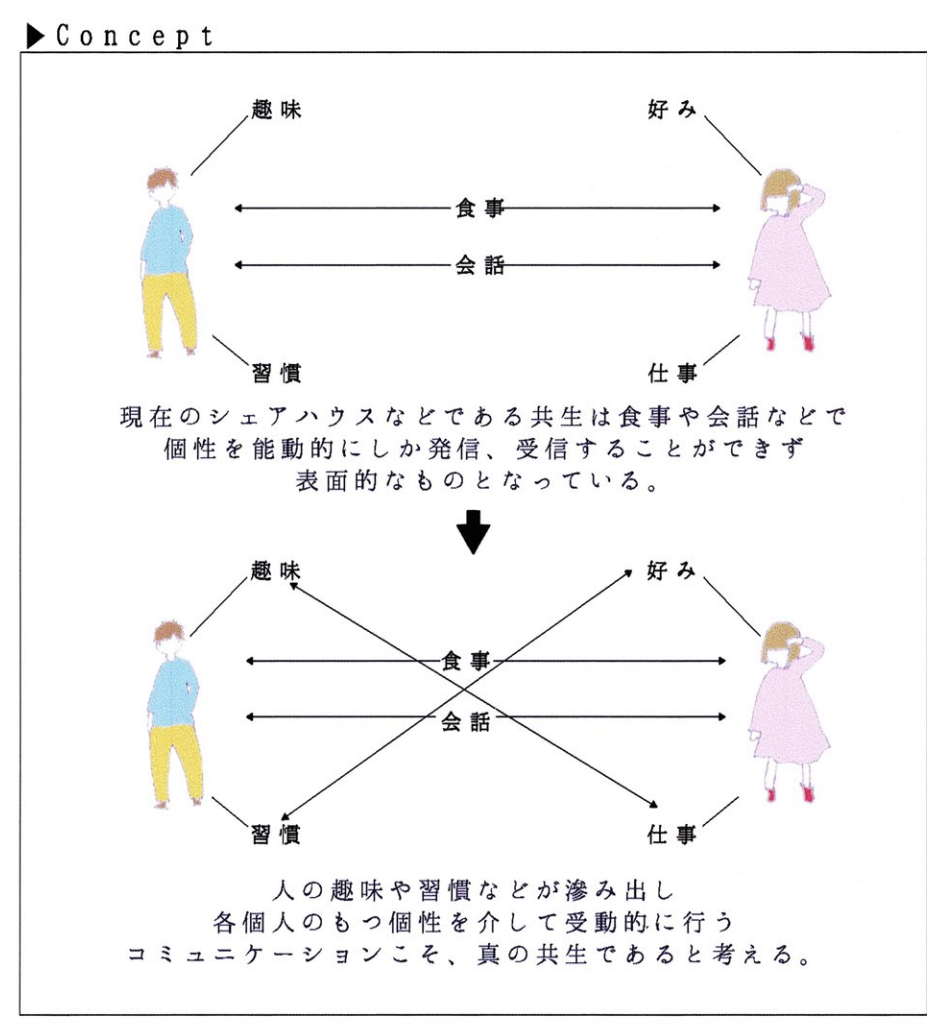


AM 9:00 個々の部屋でくつろぐ
 AM 11:00 少しずつ場を広げ活動始める
 PM 3:00 いつものまにか壁が全開となり近隣住民が訪れる
 PM 7:00 4人の壁を持ち寄りできた大テーブルにて夕飯をとる

Site

東京には多くの密集住宅地と細い路地が広がる。密集した住宅地ではそれぞれが個々の住空間を最大限確保するために建物と建物がせめぎあう。そのような住宅地において最小限の個々の住空間は確保しつつ、可変の壁により、セットバックしたような拡がりを作り、まちや自然環境との共生を目指す。

01 住空間を十分に確保した閉じた住宅にもなる
 02 開く壁により、内外にまたがる形で街や自然と共生する溜まりを作る



Method

この家は3枚の異なる厚さの壁で構成される。2枚の『個性を入れるための壁』が『各個人の住空間のための壁』をはさむように存在する。『個性を入れるための壁』は各住人に合わせ上下左右に動かすことができ、下図のように壁が様々な用途に変用することができる。この壁を開くことでできる開口により、共に住まう住人やまち、自然環境に対して受動的に発信する。また、『壁を開く』という行為自体が共通意識となり、共生を感じるキッカケとなる。